

みんなで守り、育てよう勝山市の医療！

奥越二次医療圏を守ろう

勝山市の医療の現状を市民の皆さんに知っていただき、奥越二次医療圏を今後も維持していくために、今月号から勝山市内の医師の皆さんに医療等について毎月インタビューしていきます。



わかばやしこども内科クリニック 若林 正三郎 院長 (勝山市医師会会長)

奥越二次医療圏確保のため、福井社会保険病院のベッド数の確保および中核的病院として機能の維持が望まれます。そのためには市民の皆さんが福井社会保険病院を利用すること、福井社会保険病院が機能を充実させること、この両輪がそろうことが不可欠です。

■予防接種を受けましょう

勝山市の予防接種受診率は高く、これを維持していくことが感染症からお子を守ることもなるのです。保護者として、お子さんのかかりつけ医を決め連絡を取ること、年齢ごとの健診を通じて予防接種を受けているか確認してください。小児科医としても予防接種をお勧めします。予防接種の種類が増え、集団接種から個別接種となったことで、保護者の自覚と認識が必要であり、責任も重くなりました。お子さんの健康を守るのは保護者であることを自覚し、予防接種を受けてほしいと思います。

■この時期流行する感染症

今はRSウイルスが流行しており、今後はノロウイルスやインフルエンザに注意してほしいです。

童謡「赤とんぼ」の歌詞の書

10月16日、市が「赤とんぼと共に生きるまちづくり」を行っていることを知った水木留蘭さん=遅羽町嶗崎=から、童謡「赤とんぼ」の歌詞をご自身で書かれた作品を寄贈されました。

なお、この作品は教育会館の耐震工事が終了した後、同館に展示する予定です。

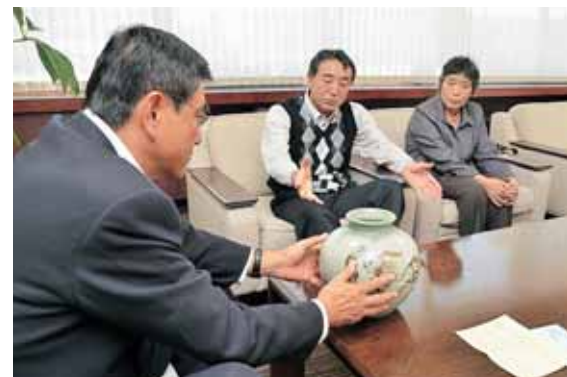


「赤とんぼの活動を応援していきたい」と水木さんは語っていました。

勝山市に貴重な品を寄贈

大堀相馬焼

10月22日、東日本大震災の影響で勝山市に一時避難し、今年7月に福島県南相馬市に帰郷した渡部好綱さん・キミ子さんご夫妻が市役所を訪れ、帰郷後の近況報告とともに、大堀相馬焼の壺を寄贈されました。



災害後、作陶を再開して最初にできた大堀相馬焼の壺とのこと。

「勝山市の皆さんに大変お世話になりました」

—陸前高田市長講演・山岸市長と対談—

10月14日、すこやかににおいて、勝山市が東日本大震災発生直後から復興支援を続けている岩手県陸前高田市の戸羽 太 市長をお迎えして講演会を開催し、約100人の市民が参加されました。



講演する戸羽太陸前高田市長

勝山市の支援に感謝

講演の中で戸羽市長は、勝山市が震災直後から福祉避難所の開設・運営を行ったことや、現地小学生の受け入れやボランティア派遣などの支援を行ってきたことについて、「勝山市の皆さんには大変お世話になりました。」と感謝の言葉を述べられました。

復興の現状

さらに、現在の復興状況についてふれ、日本では、千年に一回といわれる未曾有の災害に対してすら、平常時のままの法律が適用され、国や県の許可に手間取り、手続きが進まない現状に、「被災地と国の気持ちが一致しない。大きなギャップを感じている。」と話され、また「今回の被災地が、東京や大阪などの大都会であれば、1年半経過しても何も変わらないことはないはずで、田舎だから復興がなかなか進まないのではないか。」と悔しい思いをにじませています。

総理大臣が「道路事情が悪いため物資搬入が遅れている。」と言い訳をしている時に、既に勝山市からの救済物資は陸前高田市に届いていたことにも触れ、国の対応の遅さを批判しました。陸前高田市の現状を、フェイスブックなどを利用して情報を海外にも流しており、「チャレンジできることはチャレンジする。それが被災地を一

被災者の頑張っている姿を忘れないでそれが私たちの励みになります



日も早く復興させ、仲間・友達を増やす手段。」との考えも示されました。

また、震災の記憶を風化させないことが重要で、「被災者の皆さんが、毎日頑張っていることを忘れないでほしい。それが励みになり、心がくじけない。」と話されました。

これからのまちづくり

今後の復興計画については、「世界に誇れる美しいまちの創造」をひとつのテーマとし、陸前高田市は健康者と障害者の壁が全くない、ノーマライゼーションという言葉すら超えた町を目指す考えを示されました。

また、「美しいまち」とは、市民の心が美しく、どんな人も笑顔で迎え入れ、絶対に差別やいじめがないまちであり、「必ず世界に誇れる美しいまち陸前高田を作り、皆さんに遊びに来ていただき、また笑顔で迎えられるよう頑張っていく。」と話されました。

市長対談…さらに大きな交流を

講演後、山岸市長との対談が行われ、対談の中で山岸市長は、「勝山市民の善意の寄付金による支援により、両市の絆がしっかりと結ばれた。今日をきっかけに、更に大きな支援・交流の輪を作っていきたい。」と話しました。さらに、被災地や被災者の方々のことを常に気にかけることが勇気・希望になるとの話から、「そういう気遣いを、勝山市民が持てるような交流の仕組みづくり、また勝山市民の皆さんの善意が届くような仕組みづくりをしっかりとやりたい。」と話しました。



山岸市長との対談

戸羽市長は、「今後は、住民同士もしっかりとした交流ができれば素晴らしいと思う。」と話され、一度被災地の現実を見てもらい、家族など周りの方々に被災地の様子や被災者の頑張っている姿を伝えてもらうことで、「この絆、あるいは私たちの忘れないでほしいという思いが伝わらると思う。」と話されました。